

my sweet house

owner's interview

どこにもない
「白い家」。
見果てぬ完成へ、
まだまだ進化中。

vol.1
owner
Yさま



人と同じは絶対にイヤ。
家だって見た目は大切。

コンクリートのパーテーションの向こうに、白いキューブ。洗練された佇まいは、人が暮らす住宅というよりもモデルハウスのようです。すっきりとして生活感が感じられないのは、家の正面に窓がないからかもしれません。そんな個性的なYさま邸は、オープンハウスの時も大人気だったそうです。

「人と同じはイヤなんです」と、ご夫婦は口をそろえます。残念なこと、どの家を見学しても、どれも同じに見えたそう。「ビブホームズは、外観がめずらしく、内装を自由につくれるのが気に入りました」と、ふたりは言います。

家具に合う家にしたかった。
希望とコンセプトが合った。

家具に合う家。これはビブホームズのコンセプトですが、それはご夫婦の希望でもあったと言います。家具が好きなおふたりは、家を建てる前から、気に入ったものを買そろえていました。「ソファやダイニングテーブルは、前から使っていたものです。でも、住んでいた賃貸の家の床にはどうしても合わず。家を建てるなら、家具が活きる家にならんと考えていました」と、ご主人。

ピブスには系列のインテリアショップ「アンティキテ」があり、好みにぴったりのアイテムを提案してくれるのも魅力の一つだったようです。

夫婦のお気に入り、
ピブスのこだわり。

黒い鉄と木の階段。それが、リビングとキッズコーナーをゆるやかに区切っています。階段をのぼりきったところ、ちょうどキッズコーナーの真上に書斎があります。「キッチンから見えるようにしたんです。妻が料理をしながら、子どもを見られるように」と、ご主人は説明してくれました。

空間を印象的にしているのが、階段を支える壁。構造上どうしても必要ですが、一般的な資材とありきたりの壁紙ではつまらない。ピブスに提案されたのが、「黒い鉄の壁」。住宅にはめずらしい資材が、夫婦の心をとらえました。



もっと手を加えたいくなる。
もっと家っぽくなる。

ふたりがはじめてピブスを訪ねた時、自分たちの希望は伝えたと言います。念のためにリスト化して、1週間後に再訪すると、設計図には希望がすべて盛り込まれていました。「青島社長と森山専務のセンスの良さに驚きました」と、奥様。そのセンスを信頼して、家づくりを任せました。

奥様の自慢は、キッチン。合板なのにステンレスのような質感の収納棚が、お気に入りです。「天井を変えて、もっとインダストリアルっぽくしたい」と、奥様はこれからの計画を楽しそうに話してくれました。

IT'S SWEET POINT!

家に合わせたオリジナルの建具

Yさま邸のsweet(すごい!)は、建具です。既存のものはデザインや色が家に合わず、すべてをフルオーダーメイドに。キッチンの収納やダイニングのキャビネット、室内ドアなど、空間の雰囲気をそこなわずに、職人さんが一つひとつ造りました。だからこそ調和のとれた空間になっています。

今回のsweet houseは

b.i.v HOMES <ビブホームズ>

このブランドのコンセプトは、「白」をデザインした住宅。特徴は、①白い外壁 ②空間のゆとり(間仕切りとしての壁を減らす) ③家具に合うデザインです。スタイリッシュでクールな家を理想としている方に好まれています。



1.「家具から発想」でデザインされたダイニング。お気に入りのアート作品が彩りを添える 2.ここからの眺めが、ご主人が一番好きなのだという 3.吹き抜けに美しい階段が映える。踊り場の書斎は奥様のアトリエ 4.キッズコーナーの壁は塗装した古材。これで夫婦はアンティークの良さに目覚めた 5.コンクリートのパーテーションが玄関を、白い壁が庭を隠し、生活を守る



ようこそ、beusな店へ

女神のような気分になれる、
より美しい自分に出会えるサロン。

MIEUXS -ミュウズ- hair salon

今年3月、函館市昭和に愛らしい美容室が誕生した。MIEUXS(ミュウズ)、フランス語の「よりよく」と英語の「女神」の意味をもつ。オーナーの高谷さんは、自宅を新築するのをきっかけに、独立して自分の店をオープンさせた。「自分好みのシックな雰囲気にするつもりでした。でも、お客様に喜んでいただけるものを考えたら、こうなりました」と、高谷さん。やはり建物だって、見た目も大切。外観を見て気になったと、予約してくる人もいるという。店内は、白を基調とした上品でデコラティブな空間。一番こだわったシャンプースペースは、コンパクトながらも個室で落ち着く。その名のとおり、より素敵な自分に出会えそうな美容室である。

SHOP MEMO
【オーナー】高谷 将 Masaru Takaya
【ブランド】インターデコハウス
【タイプ】店舗併用住宅



SHOP DATA
MIEUXS (ミュウズ)
函館市昭和1丁目1-18
0138-87-2508 090-8909-4788
営業時間/10:00~(予約制) 定休日/不定
駐車場/3台
Menu/カット:一般3,780円 カラー:5,400円~
パーマ:8,100円~ セット:2,160円~
トリートメント+ヘッドスパ:3,240円~

ハコダテノ建テモノ hakodate architecture spot

レンガは建設当時のもの。
規制があるから美しいまま。

美しい建物、めずらしい建物があれば目を奪われ、構造が気になり、資材をたしかめなくなる。それが、建築家。そんな建築家が、函館の建物をマニアックに調査！今回は、「金森赤レンガ倉庫」。広報担当の奈須川ゆかりさんにお話を聞きました。



実は、奈須川ゆかりさんピブス製

レンガは建設当時のままのものですか？

明治42~43(1909~1910)年に再建された時のままです。金森倉庫の創業は、明治20年。その建物は、明治40年の大火で消失してしまいました。火が燃え広がった原因は屋根と考えられたため、再建時には、天井板の上にレンガを敷き詰めるという方法がとられました。現在は、レンガを取り外して、防水パネルや鉄板に代わっています。当時と違うのは、屋根と補強用の金具だけです。

現在の耐震強度にも対応していますか？

南西沖地震にも東日本大震災にも耐えました。驚くのは、建築当時の技術。しなやかに造られているようで、揺れても元に戻り、折れたり崩れたりしないのです。柱も頑丈で、いまとこそ、大規模な改修は必要ありません。お客様の命に直結するので、日々の点検は欠かせません。金森倉庫は、函館市の伝統的建造物に指定されています。そのため、市の規制や指導に従って管理しています。規制があるからこそ、美しい景観が保たれていると思います。

金森赤レンガ倉庫

以前の金森商船株式会社の営業倉庫。現在は「BAYはこで」[金森洋物館]「函館ヒストリープラザ」「金森ホール」から成る商業施設。レンタル倉庫として営業中。
■見学/商業施設は自由 ■料金/入館無料 ■開館時間/9:30~19:00 ※季節による変動あり
■アクセス/市電・十字街電停下車、徒歩2分



1. 金森ホールのレンガの積み方は、堅固な「イギリス式」。壁の厚さは50cmもある 2. 入口上部の番号は、倉庫業の名残。この番号を目印に荷物の出し入れがおこなわれた。馬車が入るように内部は広い 3. 梁で屋根を支える構造は、現代では考えられないそう。当時の技術には驚かされてばかりと奈須川さん(写真は金森ホール内) 4. 一本の柱をまるごと使用した柱。荷物を引っ張る道具「この」を引っ掛けた傷跡など当時の面影は、函館ヒストリープラザ内の函館ビヤホールで見られる